



九州産業大学は、中期計画(2021-2030)において、「文理芸融合のグローバル総合大学へ」をスローガンに掲げ、前半の第1フェーズ(2021-2025)では、教育・研究活動を中心としたさまざまな取り組みを着実に進めてまいりました。これらは、本学を支えてくださる多くの関係者の皆さまのご理解とご協力のもとに実現してきたものです。

本冊子は、これまでの歩みを踏まえ、後半の第2フェーズ(2026-2030)における本学の考え方や方向性を簡潔に整理したものです。今後5年間、どのような視点で教育・研究や大学運営を進めていくのか、その全体像をお示ししています。

第2フェーズは、環境の変化が加速する中で、本学が中期計画目標の実現に向け、教育研究の深化と大学改革をさらに推進していく重要な期間となります。地域社会や産業界をはじめとする関係者の皆さまと連携しながら、新たな価値の創出に取り組んでまいります。

計画は、進捗や社会環境の変化を踏まえ適時アップデートしていきます。まずは第2フェーズの出発点として、本冊子が計画への理解を深めていただく一助となれば幸いです。

2026年2月  
九州産業大学  
九州産業大学造形短期大学部  
理事長 岩崎 和人

文理芸融合のグローバル総合大学へ

# KSU VISION 2030

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY  
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN



---

中期計画 第2フェーズ  
(2026-2030)

—— 文 理 芸 融 合 の グ ロ ー バ ル 総 合 大 学 へ ——



建学の理想

産学一如

産業と大学は車の両輪のように一体となって  
時々の社会のニーズを満たすべきである。

ブランドメッセージ .....	03
中期計画第2フェーズ「5つの基本戦略」 .....	04
■ I. 文理芸融合を中核とした教育研究の深化 .....	05
■ II. グローバル人材育成と国際化 .....	07
■ III. テクノロジーによる価値創造 .....	09
■ IV. スポーツ活動の促進及び心とからだの健康づくり .....	11
■ V. 大学運営基盤の強化 .....	13

2025年に創立65周年を迎えた本学では、教職員一体となり、未来に向けて本学が目指すべき想いを表現したブランドメッセージを掲げています。本学は、このブランドメッセージのもと、福岡から九州、そして世界で活躍する人材の育成や社会課題の解決に貢献する研究成果の創出、地域社会との連携強化を加速させ、その使命を果たしていきます。

ブランドメッセージ

## 次代を描く感性、世界を動かす実践力

ただ未来を夢見るだけでは、何も動き出さない。

必要なことは、

理想への道筋を描き、それを実現する力。

私たちは建学以来、

豊かな感性と確かな実践力を育み、

時代の変革に応じてきました。

これからも変革を志す、すべての人とともに、

産業と地域、そして世界を動かしていく。

九州産業大学の揺るぎない決意です。

ブランドアイデンティティ

【存在意義】

芸術的感性と実践的知性で、

課題を見つける想像力と解決する実行力を育み、

産業、地域、そして世界に活力をもたらす。

【私たちが共有する価値観】

- ・教職員が一体となって知識と熱意を結集し、学生一人ひとりの成長に寄与する。
- ・文理芸融合による、幅広い視野と自由な発想で、教育と研究の可能性を拓ける。
- ・地域の一員として、社会課題の発見と解決をリードする。

## ▶ 中期計画第2フェーズ「5つの基本戦略」

中期計画(2021-2030)は、スローガン「文理芸融合のグローバル総合大学へ」を掲げ、前半の第1フェーズ(2021-2025)では、「教育」「研究」「国際化」「産学連携」「社会・地域貢献」「ダイバーシティ」「ブランディング」「経営基盤」の8分野を設定。分野ごとに目標を設け取り組みを進めてきました。

後半となる第2フェーズでは、ブランドメッセージ「次代を描く感性、世界を動かす実践力」をコアバリューとしながら、2030年の目指す姿の実現に向け、5つの戦略を設定。「文理芸融合のグローバル総合大学へ」の実現に向けた取り組みを加速させていきます。

〈2030年までの最終目標〉

文理芸融合のグローバル総合大学へ

〈ブランドメッセージ(コアバリュー)〉

次代を描く感性、世界を動かす実践力



# I. 文理芸融合を中核とした教育研究の深化



## 💡 計画概要

文系・理工系・芸術系学部がひとつのキャンパスに集まり、分野の枠を超えて学び合う文理芸融合教育を加速・深化させます。さらに、産業界と連携した研究活動の活性化や、社会人・留学生を対象とした教育の充実にも取り組みます。

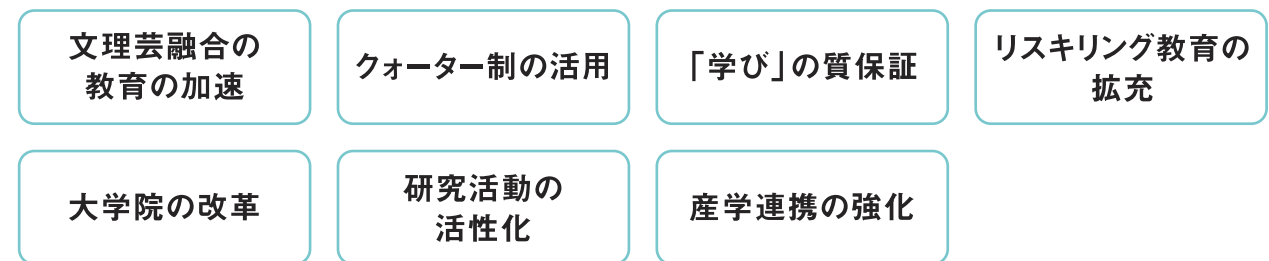
### ■ 文理芸融合教育により、知性と感性を養う教育を推進

自分の専門を深めながらも、他の分野も学ぶことにより、知識・分析力・理解力といった「論理的思考力」を身に付けます。また、文学・芸術作品などに触れることにより、その思いを感じ取れる「感性」を育てます。

### ■ リスキリング教育・大学院教育の拡充

社会の変化に柔軟に対応しながら、本学の特色の一つである観光分野を始めとした、様々な分野でのリスキリング教育に取り組むほか、社会人・留学生が学びやすい大学院教育の拡充を図ります。

## 🚩 2030年度までの目標

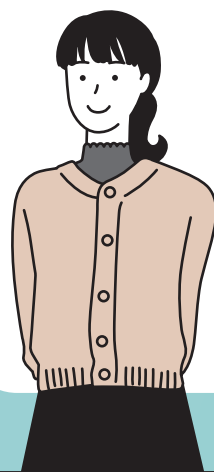


## 🔍 中期計画 第2フェーズ (2026-2030)

2030年度までの目標	2030年度までの主な数値目標 ※達成率が毎年の場合、「/年」と記載	アクションプラン
文理芸融合の教育の加速	●文理芸融合のプロジェクト型教育数： いずれか2分野以上融合のプロジェクト40件、 うち3分野融合プロジェクト5件 ●単位を認定したプロジェクト型教育数：100件	1 体系的な文理芸融合教育プログラムの構築
		2 文理芸融合による感性を育む教育の充実
		3 実践力を高める教育の推進
		4 学びの質を高める高大連携の強化
		5 大学間連携教育の強化
		6 学部の特性・特色を活かした教育の推進(アドバンスプログラム等)
クォーター制の活用	●海外からの交流学生受入数：300名	7 クォーター制を活かしたカリキュラムの構築・改善
「学び」の質保証		8 外国人学生受入れプログラムの充実
		9 教学マネジメントの強化
		10 学修成果を基軸にした内部質保証の実質化
		11 各種取組みに学生の意見を取り入れる仕組みづくり(さまざまな学生に対する快適な学びの環境の提供)
		12 第一線で活躍する実務家や企業と連携したリスキリング教育の拡充
リスキリング教育の拡充	●リスキリング受講者実数：250名	13 観光分野の社会人教育の拡充
大学院の改革	●社会人院生数：50名	14 観光MBAの設置
		15 社会人、留学生が学びやすい大学院教育の拡充
		16 学部教育との一貫性の向上
		17 文理芸融合を中核とした研究プロジェクトの実施
研究活動の活性化	●著書・論文・作品発表等：320本 ●特許保有数：25件(累積)	18 研究実績の拡大
		19 学術支援の高度化
		20 研究倫理及び研究コンプライアンスの徹底
		21 産学官金連携による共同研究プロジェクトの拡充
産学連携の強化	●共同研究プロジェクト数：70件/年 ●外部資金獲得金額(受託・共同研究、奨学寄附金)：2.5億円	22 社会実装型研究の推進
		23 社会性の高い産学連携活動の推進
		24 起業家マインドの醸成及びスタートアップの創出

## PICK UP! 文理芸融合のプロジェクト型教育

誰かの役に立ち、「欲しい」と思われるものを生み出したい。

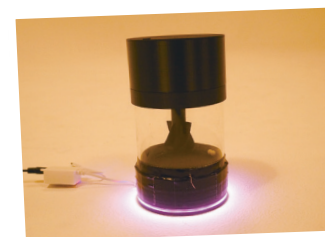


芸術学部と理工学部でひとつのプロダクトを作り上げる『テクノアートプロジェクト』で学んだことは、ものづくりの難しさと楽しさです。また、チームで進めるプロジェクトだったこともあり、責任感が身に付きました。この経験を糧に、卒業後は「誰かの役に立つもの」「欲しい!と思われるもの」を次々と生み出していきたいです。多くの人に喜ばれるプロダクトを手がけられるような人材になりたいと考えています。

芸術学部 深川 紗也夏さん(久留米高校出身)



▲テクノアートプロジェクトで制作した仕掛け付き貯金箱



▲玉の動きを「偶然性」と「偶発性」で表現

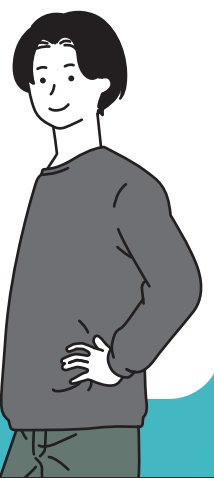


▲左から2番目が重松さん

顧客のニーズと形に合わせた創造力を磨いていきたい。

『テクノアートプロジェクト』を通じて、異分野との協働で「伝える力」と「逆算思考」を磨きました。芸術と理工学の架け橋となった経験は、これからの社会で顧客の真のニーズを引き出し、形にする力として活かしていきたいです。またこの挑戦から、チームで価値を創る難しさと喜びを学びました。将来は、さまざまな視点を束ね、人と人をつなぎながら新しいものを生み出していける人材になりたいと思っています。そのために在学中に積み重ねる経験と資格が、未来への確かな一歩になると感じています。

理工学部 重松 才樹さん(福岡魁誠高校出身)



# II. グローバル人材育成と国際化



## 💡 計画概要

社会全般の大きな課題となっている人材のグローバル化。本学では、これまでの取り組みを拡充し、グローバル展開を担う基礎力を持つ人材の育成に加え、教職員の国際化対応能力向上にもさらに注力します。

### ■ グローバル展開を担う基礎力を持つ人材育成

多文化理解・コミュニケーション能力・課題解決力・チャレンジ精神を持つ人材を育成します。

### ■ 国際化推進体制の再構築

優秀な留学生の獲得と育成を支える仕組みの整備を含め、国際化を推進する体制の確立にも取り組みます。

## 🚩 2030年度までの目標

グローバル教育の加速

留学生獲得の強化

グローバル志向の組織の確立

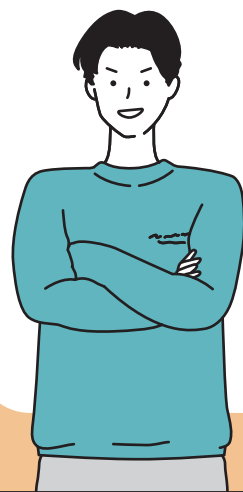


## 🔍 中期計画 第2フェーズ (2026-2030)

2030年度までの目標	2030年度までの主な数値目標	アクションプラン
グローバル教育の加速	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外留学・海外企業研修(1週間以上): 800名/1学年の卒業生</li> <li>● 海外大学等との共同プロジェクト数: 10件</li> <li>● 海外大学との協定校数・連携校数: 50校</li> </ul>	1 グローバルリーダーシップ・プログラム (GLP) の拡充
		2 グローバル・フードビジネス・プログラム (GFBP) のさらなる充実
		3 スタンフォード大学等との連携によるグローバル人材育成の拡充
		4 グローバル人材育成教育の裾野の拡大とグローバルスキルの向上
		5 新たな連携先の開拓
		6 異文化交流の拡大
		7 海外協定校との共同プロジェクトの実施
留学生獲得の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部の外国人留学生数: 500名</li> <li>● 外国人留学生就職決定率(学部、対卒業生): 75%</li> <li>● 外国人留学生日本語能力試験 N1相当取得率: 100%/卒業時</li> </ul>	8 外国人留学生の受入れ拡大
		9 外国人留学生に対応した教育プログラム・支援の構築
グローバル志向の組織の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CEFR B1レベル以上の事務職員数: 150名以上 (うち、B2レベル以上の事務職員数30名以上)</li> </ul>	10 国際化を推進する体制の確立
		11 教職員の国際化対応能力の向上

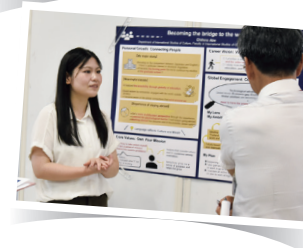
## PICK UP! グローバル・リーダーシップ・プログラム (GLP) \*

グローバルな視点を持つ世界とつながる未来を目指す。



GLPで培ったグローバルな視点と経験から、海外で働くことも日本にいながら世界と関わることも、どちらも視野に入れながら自分なりのキャリアを築いていきたいです。5年後の目標は、後輩たちに「自分もこんな挑戦ができるんだ」と思ってもらえる存在になること。仕事で得た学びを発信し、グローバルな視点で誰かの背中を押せる人材になりたいと思います。そして、オンとオフのどちらも充実させながら人生を心から楽しんでいきたいです!

商学部 上妻 大騎さん (熊本商業高校出身)



「やってみて吸収する」を武器に、これからも成長を続ける。

GLPの海外展開企業実習で行ったタイでの出会いが教えてくれたのは、「自分の好き」ではなく「世界の問題」から仕事を考えるという視点です。この気づきが、将来選択の大きな軸となりました。大学院に進学し、チャレンジと成長を繰り返しながら後輩に経験を伝え、専門知識を深めていきたいです。英語圏での海外滞在にも挑戦し、実践で語学力を磨きながら、将来、海外とつながる仕事に就き、プライベートでも世界を旅する、そんなワクワクする毎日を送ることが目標です。

国際文化学部 安部 千裕さん (九州産業大学付属九州高校出身)



# III. テクノロジーによる価値創造



## 💡 計画概要

急速に進む産業構造の変化やデジタル化、AIの活用に対応するため、先進的なテクノロジーを活用し、教育・研究・大学運営の質の向上を図ります。

### ■ デジタルネイティブ世代への対応

デジタルネイティブ・AIネイティブ世代に対応した教育プログラムの開発を進め、テクノロジーによる新たな価値創造に取り組みます。

### ■ 様々な分野でのAI活用やDXを推進

教育・研究・大学運営等様々な分野における質の向上を目指し、AI活用やDXを推進。加えて、次世代技術の研究強化を図りながら、社会・産業界への貢献を目指します。

## 🚩 2030年度までの目標

デジタルネイティブ世代に対応した教育プログラムの開発

様々な分野・大学運営でのデジタル活用の推進

## FACILITY

### ▼ クリエイティブセンター コラボorium

専門分野の異なる学生が集まり、様々な課題を解決するためのアイデアの創出、アイデアをカタチにするモノづくりを実践的に学べる空間。



## 🔍 中期計画 第2フェーズ (2026-2030)

2030年度までの目標	2030年度までの主な数値目標	アクションプラン
デジタルネイティブ世代に対応した教育プログラムの開発	●数理・データサイエンス・AI関連科目の履修率：100%	1 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの拡充
		2 デジタルを活用した思考力・実践力を育成するカリキュラムの整備
		3 情報セキュリティ教育の推進
		4 デジタルスキル・リテラシー修得状況の評価体制構築
		5 次代に対応した新しい教育スタイルの模索
様々な分野・大学運営でのデジタル活用の推進	●職員の業務へのAI活用率：100%	6 テクノロジーを活用した学修支援の充実
		7 IT・AIを活用した業務改革
		8 教職員のデジタルスキル向上
		9 情報セキュリティリスクへの対応力強化(研修・インフラ・組織)

## PICK UP! AI・デジタル技術を活用できる人材育成

テクノロジー×人間が、新たな価値を創造する。

AIやデジタル技術の専門知識を基盤に、創造性・倫理観・コミュニケーション能力・課題発見力を組み合わせることで、人間だからこそ生み出せる新たな価値を創造できると考えています。学生に身に付けてほしい能力は、「AIを正しく活用しながら、AIにはできない価値を創り出す力」。短期的なスキル習得にとどまらず、「知性・倫理・感性・創造力・実践力」を長期的に磨くことで、未来社会で自ら課題を見だし、新たな価値を創造できる人材へと成長できるよう支援していきます。

理工学部 鶴田 和寛 教授



# IV. スポーツ活動の促進及び心とからだの健康づくり



## 💡 計画概要

スポーツ活動は健康の向上や地域社会の活性化など、多面的な役割を果たす存在として、今後さらにその価値が高まっていくと考えられます。本学は、アスリート学生の支援や、スポーツ応援活動の拡大などスポーツに関わる活動を促進させていくほか、心とからだの健康づくりに関する取り組みも進めていきます。

### ■ スポーツ活動の促進

強化指定サークルにおける競技力の向上や、応援活動の拡大、安全・安心にスポーツに取り組める環境の整備に取り組み、スポーツ活動の「する」「みる」「ささえる」を活性化させます。

### ■ 心とからだの健康づくり

心とからだの健康づくりを促す教育、ボランティア活動への参加、地域の健康課題を解決するプログラムの開発などを通じて、本学の社会的役割を果たしながら、プレゼンス向上を図ります。

## 🚩 2030年度までの目標

スポーツ活動の促進  
（「する」「みる」「ささえる」）

心とからだの健康づくり

## 🔍 中期計画 第2フェーズ (2026-2030)

2030年度までの目標	2030年度までの主な数値目標	アクションプラン
スポーツ活動の促進 （「する」「みる」「ささえる」）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国大会出場回数：延べ50回出場(5年間累計)</li> <li>●アスリート奨学生全員4年卒業、進路決定率100%</li> </ul>	1 強化指定サークルにおける競技力の向上
		2 アスリート学生 <sup>※</sup> に対する学業と競技の両立の推進
		3 安全・安心にスポーツ活動に取り組める環境整備
		4 本学のスポーツに対する応援活動の拡大
		5 スポーツ・ウェルネスイベントの実施による地域貢献活動
		6 地域の企業やスポーツチームと連携したスポーツ活動の推進
		7 スポーツを起点とした教職員の心とからだの健康増進
心とからだの健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティア活動参加人数：延べ6,000名(5年間累計)</li> <li>●健康課題を解決するプログラムの開発：5件(5年間累計)</li> </ul>	8 心とからだの健康づくりを促す教育の展開
		9 ボランティア活動の推進
		10 地域の健康課題を解決するプログラムの開発

※上記アクションプラン「アスリート学生に対する学業と競技の両立の推進」の「アスリート学生」とは、アスリート奨学生を示す。

## ACTIVITIES

### ▼ スポーツ



### ▼ ボランティア



## PICK UP! スポーツ活動の促進



自分の諦めない姿が、まっとう誰かの力になると信じて。

ハンドボール部で身に付けた、「まずは挑戦すること」「どうしたらできるかを考えること」を後輩たちにも伝え、大会で結果として示していきたいと考えています。何事にも必死で諦めない自分であること、そして、その姿を通じて誰かの頑張る活力になれると嬉しいです。目指したい職業はまだ決まっていませんが、自分のやりたいことを諦めず頑張り続けることで、誰かに影響を与えられる存在になりたいです。

人間科学部 今藤 菜々佳さん（鹿児島南高校出身）



# V. 大学運営基盤の強化

## 🔦 計画概要

基本戦略I～IVの着実な推進には、大学運営基盤の強化が不可欠。学生支援・組織体制・職員の人材育成など、多面的な取り組みを通じて、持続可能で社会から選ばれ続ける大学づくりを進めていきます。

### ■ 学生支援と安定的な教育環境の確保

入学定員の維持と、多様な資質を持つ学生の確保に加え、卒業・就職までを見据えた支援体制を拡充します。

### ■ 組織力の強化と大学の価値向上

ガバナンスの確保、DE&Iの実現、地域社会への継続的な貢献活動、そして大学運営の要となる職員の人材育成に取り組み、強固な大学運営基盤の確立を目指します。

## 🚩 2030年度までの目標

多様な資質を有する学生の確保

学生支援の充実

学びやすい、快適なキャンパスの実現

地域連携活動・社会貢献活動の推進

DE&Iを尊重する大学の実現

ブランド価値の向上

ガバナンスのさらなる強化

同窓会との関係強化

基本戦略に基づく事業の遂行

職員の人材育成とウェルビーイングの向上

財政基盤のさらなる強化

## 🔍 中期計画 第2フェーズ (2026-2030)

2030年度までの目標	2030年度までの主な数値目標 ※達成率が毎年の場合、「/年」と記載	アクションプラン
多様な資質を有する学生の確保	●延べ志願者数：25,000名 ●実志願者数：8,600名	1 高校生、留学生、社会人へのアプローチ強化
		2 教育研究組織の継続的な見直し(新たな教育分野の開拓等)
		3 入学者選抜の継続的な見直し
学生支援の充実	●就職決定率(対卒業生)：92% ●有名400社就職者数：150名 ●インターンシップ・仕事体験参加者実数：2,000名 ●学内における課外活動参加率：70%	4 修学支援の充実
		5 学生支援・課外活動支援の充実
		6 進路支援・キャリア教育の充実
学びやすい、快適なキャンパスの実現	●エネルギー使用量(原単位)▲5%(基準年：2025年度)	7 学びやすい快適なキャンパスづくり
地域連携活動・社会貢献活動の推進	●地域貢献プロジェクト数：80件/年	8 キャンパスGXの推進
		9 アートキャンパスの推進(デジタル等含む)
		10 社会課題の解決に貢献する連携活動の推進
DE&Iを尊重する大学の実現	●女子学生比率：42% (うち、理工系3学部女子学生比率：30%) ●女性教員比率：32% ●外国人教員比率：17%	11 地域の特性を活用した密着型の地域連携(観光資源など)
		12 文化芸術活動・社会貢献の推進
		13 教職員・学生のDE&Iの推進による組織力の向上
ブランド価値の向上	●パブリシティ掲載数：500件	14 DE&I社会を担う学生の育成、多様な人材の確保
		15 ブランドイメージの浸透及び進化
		16 デジタルコミュニケーション戦略・情報発信の強化(SNS活用)
ガバナンスのさらなる強化	—	17 創立70周年事業の展開
		18 社会・地域貢献によるブランドイメージの向上
		19 大学運営における透明性・適切性の確保
同窓会との関係強化	●同窓会と連携した取組み数：5件(5年間累計)	20 組織の継続的な見直し(教員組織、事務組織)
		21 アドバイザリーボードからのアドバイスへの積極対応
		22 同窓会との関係強化を図る取組みの推進
基本戦略に基づく事業の遂行	—	23 中期計画の進捗管理の徹底
		24 既存業務のスクラップの推進
		25 業務のさらなる効率化
職員の人材育成とウェルビーイングの向上	●教職員の満足度：90%	26 意思決定プロセスの迅速化
		27 職員の次代に対応する能力開発
		28 新しい働き方の試行
財政基盤のさらなる強化	●寄付金額(テーマ募金等)：4億円	29 働きやすい働きがいのある職場環境づくりの推進
		30 全学的な教員支援体制の再構築
		31 教職員の健康増進
		32 財政基盤の強化・維持
		33 寄付金推進体制の強化

## PICK UP! 学生支援の充実・地域連携活動の推進

本学の国際化と多様性の推進に貢献していきたい。

キャリア支援センターでの学生支援を通じて培った「相手の立場に立って考える力」を基盤に、より広い視野から教育・研究・地域連携に貢献していきたいと考えています。そして、学生・教職員・地域社会の方々との協働を通じて、多様な価値観を尊重しながら学び合える環境の構築に取り組みたいです。さらに、語学力の向上にも努め、英語のみならずアジア諸国の言語を学ぶことで、文化的背景への理解を深め、「生きたコミュニケーション」を大切にしていきたいです。今後も、人とのつながりを大切に、大学及び地域社会の発展に寄与してまいります。

キャリア支援センター 柳ヶ瀬 未羽 職員



▲青でつなぐ記憶とまちの風景を描くアートプロジェクト



▲かき氷販売の様子

幅広い知識を身に付け、新しい表現を生み続ける撮影監督へ。

箱崎商店街の方々とともに地域を盛り上げる活動を行いました。この活動を通じて「人に頼る大切さ」や「チームで協力しながら活動する姿勢」を学びました。今後は「After Effects」を使った撮影技術を深め、特殊効果の研究にも挑戦したいと考えています。卒業後は撮影の仕事で経験を積みながら、3DCGやグラフィックなど幅広い知識を身に付け、新しい表現を生み出し続ける撮影監督になりたいと考えています。

造形短期大学部 鬼塚脇 綺羅さん(鹿屋女子高校出身)



# 次代を描く感性、世界を動かす実践力



九州産業大学  
九州産業大学造形短期大学部

- |          |             |          |          |
|----------|-------------|----------|----------|
| ■国際文化学部  | ■人間科学部      | ■経済学部    | ■造形短期大学部 |
| ■商学部     | ■地域共創学部     | ■理工学部    |          |
| ■生命科学部   | ■建築都市工学部    | ■芸術学部    |          |
| ■国際文化研究科 | ■経済・ビジネス研究科 | ■情報科学研究科 |          |
| ■工学研究科   | ■芸術研究科      |          |          |

発行：総合企画部企画課

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1

☎092-673-5505 ✉kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp



九州産業  
大学HP



事業計画  
・実績